

車に代わる足が必要

運転免許自主
返納後の高齢者 電動バイクなど移動手段に

加齢により視力や反射神経などの身体機能が低下すると交通事故のリスクが増えるため、警察は自動車運転免許の自主返納の検討を呼び掛けている。自動車が生活に不可欠な東三河地方など的高齢者にとって、その決断は難しい。課題は返納後の移動手段だ。公共交通機関で済むのは、一部の大都市に限られる。代替手段の確立に向けた取り組みを取材した。

【関健一郎】

「シニアカー」は、マイカーに変わる一つの移動手段だ。原付免許を必要とせず、簡単に操作でき、道路交通法上は「歩行者」として扱われるため、歩道を走れる。倒れにくく、歩行者とほぼ同じ速度で走行する。田原市は、運転免許返納後のシニアカー購入に対し最大10万円を補助するなど積極的だ。

例えば、スズキの「セニアカー」は今年で販売40周年を迎える。これまでに累計32万台を販売した。手軽な操作性と、歩道を走れること、家庭のコンセントで手軽に充電

できること、4輪なので安全性が高いことから多くの高齢者が使用している。その一方で「もっと速く」「もっと格好よく」を求めて免許返納をためらう人も少なくない。そこで注目されているのが「特定小型原付」、いわゆる電動バイクだ。最大時速20kmで、若者も乗るスタイリッシュさが特徴だ。安全面を



セニアカーは、32万台超が売れた(スズキ提供)

考慮し、三輪の電動バイクも販売されている。豊橋市下五井町の「マルシメ」は、まちなかだけでなく、郊外に住むお年寄りが自由に移動できるように電動バイクの販売とレンタルをしている

る。長期的には、ライドシェアの仕組みも模索している。

マルシメの木和田全佳本部長は「鉄道から自転車まで複数の交通手段をAIを駆使して利便性を向上させていくという考

え方の次世代の交通サービス(MaaS)は、今後の日本の地方都市のまちづくりに不可欠な考え方です。MaaSインフラ提供事業による快適で持続可能な地域のくらしに貢献していきたいです」と話す。

免許返納をきっかけに人口減少局面が続く地方都市の移動の在り方自体を変える取り組みは始まったばかりだ。

豊橋市前田中町2の14
佐々木繊維(株)
0532-534141



日々の移動をより楽に。電動小型モビリティ試乗会が各地で開かれている